

助成年度：平成 21 年度

[所属] 京都大学大学院 人間・環境学研究科

[役職] 教授

[氏名] 間宮 陽介

[課題]

株式会社を利用した新たなコモンズ空間の創出

－「私化」が進む地方都市のオルタナティブな発展の考究－

[内容]

本研究は、市場原理とは異質のコモンズ原理に着目し、その異質性ゆえにコモンズを有する地域社会では地域環境の保全やコミュニティの維持、地域文化の継承などが図られている。このようなコモンズの現代的意義や機能に注目している。グローバル化、市場化、市民社会化（個人主義化）による社会変化の影響を受け、その弊害が顕著に表れる可能性の高い地方都市に焦点を絞り、コモンズ原理とは異なる普遍的・均質的なグローバルな価値観が蔓延した社会におけるコモンズのあり方を模索している。コモンズの構造原理を現代に生かすことによって、現代社会が有する社会的病理に対して有効な処方箋を描くと同時に、新たなコモンズ像を創出すること、これが本研究の目的である。

その具体的提示をするために静岡県伊東市、兵庫県西宮市、滋賀県長浜市の都市を対象とし、事例研究を行った。伝統的なコモンズが株式会社制度を利用することで再興したコモンズ（伊東市）や、株式会社の進出を契機に都市におけるコモンズ空間の自覚・創出を果たそうと試みている地域（西宮市）、そして衰退した中心市街地を株式会社によって復興させた地域（長浜市）を詳細に分析し、最終的にはそれを抽象化し、理論化を試みている。

本研究はコモンズというものを都市空間の「私化」に対する弊害の有効な対抗策として認識し、望ましい都市空間のガバナンスを達成するための「空間学的考察」の一環をなす。本研究成果は、現代社会におけるコモンズ像や望ましい都市空間のあり方を模索するなかで、コモンズ論をも内包した「空間学」の創設に向けての第一歩である。